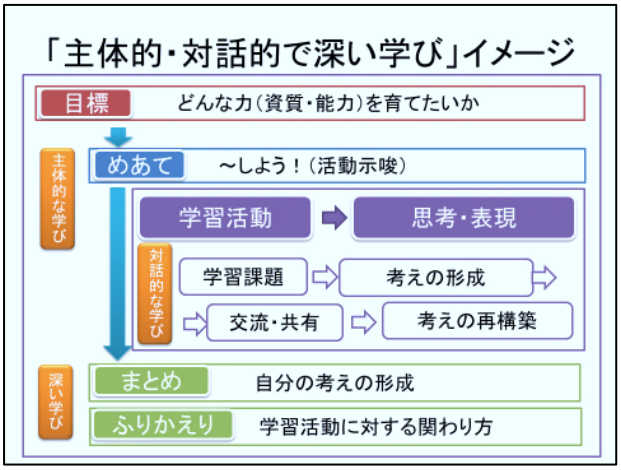
２０２２年１１月１８日

瑞穂町立瑞穂第一小学校　研究発表会資料
正確に理解し主体的に読むことができる児童の育成
子どもが育つ！　読みの授業の在り方・深め方

国士舘大学　井上善弘
yinoue@kokushikan.ac.jp

１　「主体的・対話的で深い学び」のイメージ

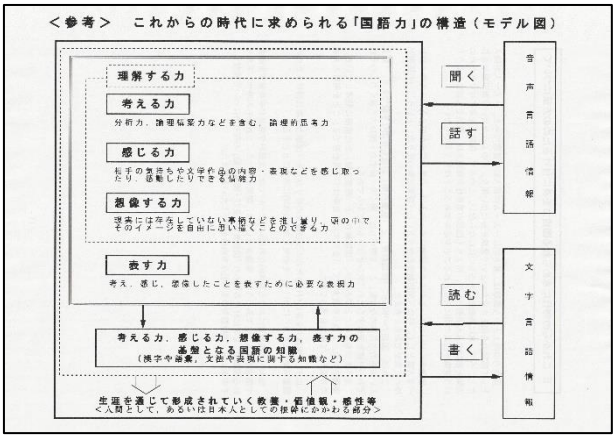


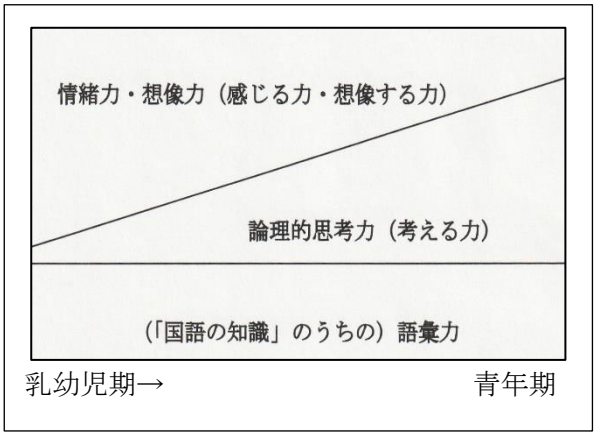
（１）「深い学び」とは何かを明確にする
①小学校国語科における「深い学び」とは
・最終的な自分の考えをもつこと
②教材研究の充実　（大学教育の問題：教材研究よりも指導技術を重視）
〇教師が「深い読み」をもつ＝Ｂ規準の設定、解答例の作成
・分科会での教材研究
・モデル作品の作成、解答例付きワークシート（支援教材・教具）
・対話・討論等の話題・議題
③多様な言語活動
〇「深い読み」に到達するための最適な言語活動
〇教材の特徴に適した言語活動
〇発達段階に応じた言語活動
☆教材が違ってもいつも同じ活動にならないようにする

（２）「主体的な学び」を支える「見通し」と「ふりかえり」
①「主体的な学び」を支える５つの言語意識
相手意識…何を読むのか。
目的意識…何のために読むのか。
場面意識…どのような状況で読むのか。
方法意識…どのような方法で読むのか
評価・活用意識…読んでどうするのか。
「単元のめあて」「学習課題」の工夫
☆「単元のめあて」が主体的な学びの入り口になる　【単元名は、それでいいのか？】
②単元指導計画の充実
〇終末の活動を見通した単元展開：「読んでどうするのか」を明確にする
〇終末の活動へ向かう各単位時間の位置づけ
※「読むこと」文学的文章の場合
低学年：時間的順序（あらすじ）をとらえる。場面読み。その時々の場面を想像
中・高学年：あらすじをとらえる。そのうえで、人物・人物関係をとらえる読み方
〇単元を通した（貫く）言語活動・・・思考と表現を一体化した言語活動

２　「読むこと・物語」の授業

（１）文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（平成 16 年（2004）2 月 3 日）





①「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」とは

【考える力】分析力、論理構築力などを含む、論理的思考力

【感じる力】相手の気持ちや文学作品の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力

【想像する力】経験していない事柄や現実には存在していない事柄などをこうではないかと推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力

○「考える力」「感じる力」「想像する力」をまとめて、【理解する力】と位置付けることもできる

【表す力】考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力であり、分析力や論理構築力を用いて組み立てた自分の考えや思いなどを具体的な発言や文章として、相手や場面に配慮しつつ展開していける能力である。

②発達段階に応じた国語教育の具体的な展開

○３歳～１１・１２歳（小学校高学年くらい）まで　【基礎作り期】

幼児期では、「読み聞かせ」や可能であれば読書により言葉の数を増やし、さらに「言葉と社会や事物との関係」を習得するために、家庭や地域で多くの様々な経験を積ませることを意識すべきである。これにより、情緒力や想像力も身に付けることができる。

小学校では、「話す・聞く」に加えて「読む・書く」の「繰り返し練習」により、国語力の基礎となる知識を確実に身に付けさせることが重要である。

特に、「読み」の学習を先行させることで、言葉の知識（特に「語彙力」）を増やすことに重点を置くべきである。

③学校における国語教育

・「聞く」「話す」「読む」「書く」を組み合わせた指導を

・指導の重点は「読む・書く」にある

情緒力を身に付けるには「読む」ことが基本になる

論理的思考力の育成は「書く」ことが中心になる

・音読・暗唱、演劇などを取り入れた授業を

※「想像力」が「思考力・判断力・表現力<u>等</u>」の「<u>等</u>」に埋没している！

○情緒力・論理的思考力・語彙力の育成を

・今後の国際化社会の中では，論理的思考力（考える力）が重要

・論理的な思考を適切に展開していくときに，その基盤として大きくかかわるのは，情緒力

・漢字・漢語を含め国語の語句・語彙力の育成が重要

※児童にも（教員にも）、「感じる力」「想像力」を働かせたい！本校の研究の出発点！

３　「読むこと・物語」授業づくりのポイント

（１）物語を読む意義

○想像力と認識力

・文学的文章の特質は、作者が作り出した虚構世界が書かれていること

・読者は、作者が作り出した虚構世界を想像力を働かせながら読む

・想像は自由だが、「作品としてのひとまとまりの文章や言葉を読む」という枠の中での自由

＊「言葉による見方・考え方」

・想像することによって、新たな創造を行ったり、新たな認識を獲得したりする

・文学的文章の読みを体験することによって、人間としての生き方をはぐくんでいく

（２）学習の「ふりかえり」の充実…【最後の５分間の授業改善】

・何を学んだのか：１単位時間の最後は「まとめ」で終わる

→学習課題に対する自分の考え（最終的な考え）

→「あなたは」で問い、「わたしは」で答える学習課題

→授業の中で芽生えた疑問＝課題解決の中での課題発見

・どう学んだのか：単元の終末は、「ふりかえり」で終わる

→学習活動へのかかわり

→学習活動に対する考え

（３）単元展開の工夫

３次構成　１次の充実：音読とあらすじ（内容の大体をとらえる）

２次の充実：学習課題の明示　学習活動の適否　考えの形成　最終場面後１時間

１単位時間の基本的な流れ

・単元のめあての確認

・学習課題の把握

・学習範囲の確認、ふりかえり（音読）

・学習活動の展開　・学習範囲の読み取り

・自分の考えの形成

・対話的な学び（交流・共有）

・まとめ（最終的な自分の考えの形成）

３次の充実：最終的な考えの形成　交流・共有　自己化　一般化

４　本校の研究から見えてきたこと

☆「学びを閉じない」授業づくり

（１）「読みの目的がわかる授業」づくり【読み取りと読み解き】

「正しく読む」から「読み深める」への指導ステップ

【正しく読む】読み取り…語意を理解し、叙述を基に正確に読み取る。

【読み深める】読み解く…様子や心情を関連付け、自分の読み（考え）をもつ

◇「正しく読む」ための指導の視点【「読み取る」ための指導】

○「正しく読む」とは

・目的に必要な情報を取捨選択する力（要約力）

・叙述から論理的展開を把握する力　（予測力）

・展開・構成ごとに分けて考える力　（分析力）　を伸ばす

①キーワードに着目させる

・順序や様子を理解するための叙述の手がかり

・全体のキーワードと部分に集中したキーワード

②適切な学習課題・発問で意識化させる

・今まで見えなかったものを発見させる　＜積極的なかかわり＞

・次に同ジャンルの作品を読む時、どう読めばよいかを体得させる　＜読み方指導＞

③ノートに感想を小まめに蓄積させ、常に自分の読みに対峙させる　　＜ノート指導の充実＞
・「今の思いを書く」「友達の発言の感想を書き留める」
・毎時間のまとめ「最終的な自分の考えを書く」

◇「読み深める」ための指導の視点【「読み解く」ための指導】
①目的をもって読み進める
・着目の視点　　：一人一人に考えをもたせたい
・「個の課題づくり」から共通の課題に発展　：読みのモチベーションを高める
・話し合い活動　　：読み深まり、読み広がり
②自分の経験や生き方とつなげて考える
・登場人物の考え方、生き方を読み取る
・読み取ったことと、自分の生き方や考え方と重ね合わせる
・これから大事にしたいことについて考えをつくる
③自分の考えをもたせる指導
・繰り返し問う
・「思う」はすべて認め、小まめにほめる
・ノートに「今の考え」を書かせる
・友達のまねを認める

（２）自分の読み取りを伝える力を伸ばす【対話的な学びの充実】
※なぜ、対話（学び合う）するのか
一人では…わかったつもりになるとそれ以上深まらない、間違いに気づかない
二人以上…自分を見直すチャンス、相手の解を少し広い視野から見直す
自分の考えを作り出すことで納得できる
・自分で表現して、つなげて、自分なりの納得をつくる

①伝えるモチベーションを与える
・目的意識と相手意識
・思いを表現できた時の喜び（ふりかえりの観点）
②考えに自信をもつために
・理由（根拠）付けを大いに褒める　　＜考え+理由＞
・友達の意見を自分の考えに付け加え、骨太にする　　＜考え+根拠（引用）＞
・似た考えでも発表する　　＜「同じです」の禁止＞
③発表の仕方を身に付ける
・慣れ　頻度・全員発表
・模倣と模索を繰り返して、次第に自分の表現ができてくる　＜型を学び、型から脱却する＞
・「なぜなら」「・・・さん、どうですか」など、優れた言葉をほめる

（３）読むことの学習から読書へ【読書生活の充実へ】
◇学びを教材で閉じない！学びを教室で閉じない！
〇「自ら本に手を伸ばす子供」を育てる（本校の出発点）
・読書は、国語力を形成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」や「国語の知識」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる上で中核となるもの
・語彙指導、読解指導の充実が読書生活の充実へとつながっていく
⇔読書の中で語句・語彙力が育成される
〇本を読むきっかけ
・世の中の人気や評判　・友達　・家族　・先生　　（「学校読書調査」　2022.11）

※本を読む楽しさ・面白さを実感できる授業づくり（＝最大の読書環境の充実）
・読み方を知る　・今まで読まなかった分野への関心　・紹介し合う場の設定

【５分間の授業改善】これまでの実践で、手ごたえを感じた授業を紹介してください
・主体的な学び　・対話的な学び　・深い学び　・語彙指導　・読書指導　など